

アスパラガス F₁ 品種の収量

工藤 聡彦・葛西久四郎・長谷川 修

(青森県農業試験場)

Yield and Characteristics of Asparagus F₁ Varieties
Toshihiko KUDOU, Kyushirou KASAI, and Osamu HASEGAWA
(Aomori Agricultural Experiment Station)

1 はじめに

アスパラガスは F₁ 品種の開発が進み、青森県で栽培されている主力品種、メリーワシントン500Wより収量性が高いと言われている。そこで、F₁ 品種の特性を明らかにして、新作型の開発と高品質安定生産技術について、検討したのでその成果を報告する。

2 試験方法

- 1) 試験場所：青森県農業試験場（黒石市）水田転作畑
- 2) 供試品種：ウエルカム F₁、ポールランド F₁、ポールトム F₁、メリーワシントン500W（対象品種）

- 3) 作型：普通栽培，トンネル栽培

- 4) 被覆資材：保温性ポリエチレンフィルム（幅95cm，厚さ0.05cm）を2枚掛け，トンネルの上部で合せて使用

- 5) 被覆始期：1989年は3月9日，1990年は3月16日

- 6) 被覆期間：40日間（ただし高温時は換気）

- 7) 耕種概要

- (1) 播種：1987年4月

- (2) 定植：1988年11月11日

- (3) 栽植距離：うね幅120cm，株間30cm，条間50cm，2条植え（555株/a）

- (4) 施肥量（年次別施肥量）：表1のとおり

表1 年次別施肥量

年次	基 肥 (kg/a)			施 肥 (月/日)	追 肥 (kg/a)		施 肥 (月/日)
	窒素	りん酸	カリ		窒素成分 (NK化成)		
1988	2.0	1.7	2.0	(11/上旬)	0.3 (5/28), 0.5 (7/22), 0.5 (8/31)		
1989	0.5	1.7	0.5	(6/1)	1.5 を2回に分施 (7/5, 8/5)		
1990	0.5	1.7	0.5	(3/9)	1.5 を2回に分施 (7/2, 8/2)		

3 試験結果及び考察

品種別の萌芽期と収穫始期を表2で示した。普通栽培の萌芽期は対照メリーワシントン500Wの4月5日に比べ、F₁品種のウエルカム、ポールランドは3日程度遅く、ポールトム、アクセルは5日も遅れた。トンネル栽培では、対照品種メリーワシントン500Wの3月28日の萌芽期に比べ、ウエルカム、ポールランドは5日程度早かったが、ポールトム、アクセルは対照品種並みの萌芽期であった。

表2 品種別の萌芽期及び収穫始め (月/日)

作 型 ・ 品 種		平成元年		平成2年	
		萌芽期	収穫始	萌芽期	収穫始
普通栽培	ウ エ ル カ ム	4/7	4/24	4/7	4/28
	ポ ー ル ラ ン ド	4/7	4/24	4/8	4/29
	ポ ー ル ト ム	4/10	5/1	4/9	4/26
	ア ク セ ル	4/10	5/1	4/9	4/30
	(対)メリーワシントン500W	4/5	4/20	4/7	4/25
トンネル栽培	ウ エ ル カ ム	3/23	3/30	4/1	4/11
	ポ ー ル ラ ン ド	3/23	3/31	4/3	4/10
	ポ ー ル ト ム	3/28	4/5	4/2	4/10
	ア ク セ ル	3/28	4/6	4/5	4/10
	(対)メリーワシントン500W	3/28	4/3	4/1	4/10

収穫始期は、定植2年目（1989年，収穫初年目）の普通栽培対照品種の4月20日に比べ、ウエルカム、ポールランドは5日程度遅く、ポールトム、アクセルは10日も遅かった。トンネル栽培では、対照品種の4月3日に比べ、ウエルカム、ポールランドは4日程度早まり、ポールトム、アクセルは2日程遅れた。定植3年目（1990年，収穫2年目）では、普通栽培の収穫始期は、対照品種の4月5日に比べ、F₁品種は1～5日程度遅れたが、トンネル栽培では対照品種及びいずれのF₁品種とも、ほぼ同じ4月10日の収穫始期となった。作型では収穫初年目，2年目とも収穫始期は、普通栽培に比べ、トンネル栽培が15日から20日程度早

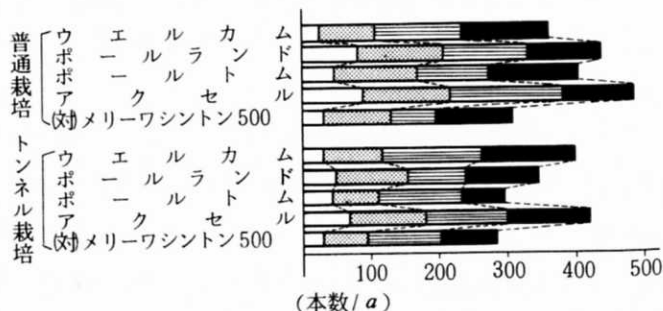


図1 規格別収量等 (1989, 収穫初年目)

まり、作期の前進が認められた。

1989年の収穫初年目における作型別各品種の収穫茎数を規格別収量として図1に示した。収穫茎数は、対照品種に

表3 1989年度収量成績（収穫始めから40日間）

作型・品種名		項 目		収 量 (A + B品 単位: kg/a, %)									
				4 月			5 月			6月	合 計 量	A+B 比 率	対照区 比 率
普通栽培	ウ エ ル カ ム			15.4	18.2	11.5	7.2		52.3	94.7	100		
	ポ ー ル ラ ン ド			20.6	25.6	16.5	17.2		79.9	98.6	153		
	ポ ー ル ト ム				25.2	13.2	16.3	9.7	64.4	97.9	123		
	ア ク セ ル				38.5	20.4	27.5	19.7	106.1	97.7	203		
	(対)メリーワシントン500 W			9.1	21.7	10.2	11.2		52.2	98.2	(100)		
トンネル栽培	ウ エ ル カ ム	32.7	13.0	13.2	8.9				67.8	97.8	144		
	ポ ー ル ラ ン ド	5.4	25.7	8.2	20.0				59.3	96.5	126		
	ポ ー ル ト ム		9.8	15.3	10.6	15.4			51.1	98.2	108		
	ア ク セ ル		24.2	14.0	19.7	19.0			76.9	97.5	163		
	(対)メリーワシントン500 W	15.0	9.2	13.9	9.1				47.2	93.5	(100)		

表4 1990年度収量成績（収穫始めから40日間）

項 目 作型・品種名		収 量 (A+B品 単位: kg/a, %)										
		4 月			5 月			6月	合 計 量 収 量	A+B 比 率	対照区 比 率	前年比
		上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬				
普通栽培	ウ エ ル カ ム	13.6			30.6	21.0	21.9	7.9	95.0	99.2	154	132
	ポ ー ル ラ ン ド	3.0			26.9	26.8	28.7	13.5	98.9	99.1	161	124
	ポ ー ル ト ム	4.5			30.1	17.9	23.8	9.8	86.1	99.9	156	134
	ア ク セ ル	0.6			39.9	36.0	28.4	22.5	127.4	94.6	207	120
	(対)メリーワシントン500 W	5.1			21.0	13.7	18.9	2.9	61.6	96.3	(100)	118
トンネル栽培	ウ エ ル カ ム	14.0	29.5		25.9	26.1			95.5	96.3	108	141
	ポ ー ル ラ ン ド	3.2	36.6	26.7	27.1	25.4			119.0	96.9	135	201
	ポ ー ル ト ム	2.1	20.0	31.5	28.2	18.1			100.0	99.3	113	196
	ア ク セ ル	2.2	19.9	51.5	36.0	33.1			142.7	98.2	161	186
	(対)メリーワシントン500 W	0.7	18.2	21.1	30.9	17.5			88.4	99.0	(100)	137

収穫始期から40日間の収量を時期別に表3、表4に示した。F₁品種の収量性は、収穫初年目の普通栽培は、ポールランド、ポルトム、アクセルが対照品種より収量が高かったが、ウエルカムは対照品種と同程度であった。

F₁品種間ではアクセルが最も収量が高く、対照品種の2倍の収量であった。次いでポールランド、ポルトムの順であった。トンネル栽培では、F₁品種がいずれも対照品種より収量性が高く、F₁品種間でも、普通栽培と同じくアクセルの収量が高かった。

収穫2年目は両作型とも収穫初年目より茎数は、140～150%も多くなり、重量では、トンネル栽培は141～201%、普通栽培が120～182%も多く、F₁品種間ではアクセルが多収で、次いでポールランド、ポルトム、ウエルカムの順で前年とほぼ同様の結果がみられた。

比べ、各F₁品種とも茎数が多く、また作型ではトンネル栽培に比べ、普通栽培の茎数が多かった。F₁品種間では、アクセルの茎数が最も多く、若茎も太く品質が良好であった。

4 ま と め

アスパラガスの萌芽期は、トンネル栽培区（被覆資材、保温性ポリエチレンフィルム：幅95cm、厚さ0.05cmをトンネル上部で合せ掛け、被覆期間は消雪直後の3月下旬から5月中旬、但し高温は換気）が普通栽培区（無被覆）に比べ約2週間前後、また収穫始期も10日以上それぞれ早く、作期の前進が認められた。

収量性は普通栽培区ではF₁品種のポールランド、ポルトム、アクセルの収量性が高く、ウエルカムは対照品種並みであった。また、トンネル栽培区では、F₁品種がいずれも対照品種より収量性が高く、総収量ではアクセルが最も多収で品質も他の品種よりも良好であった。